

入学者選抜における合理的配慮

申請前～審査・実施体制の構築に向けて

立脇洋介

九州大学アドミッションセンター

例) 近視の人は文字の小さな教科書を読むことが困難

対応案① 全員に大きな文字の教科書を配布する？

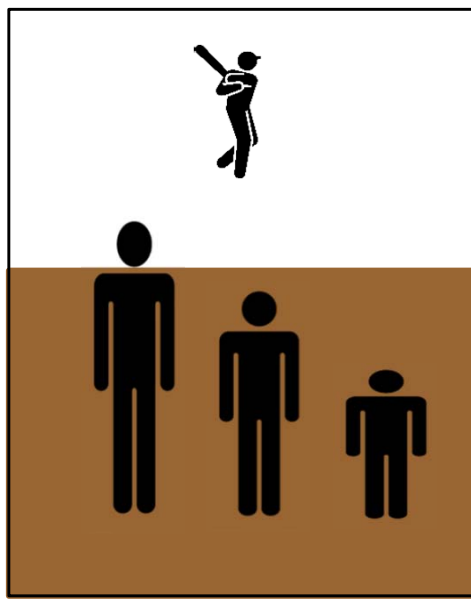
- ・教科書のサイズも大きくする or 文字数を減らす

⇒近視でない人にとっては使いにくくなる

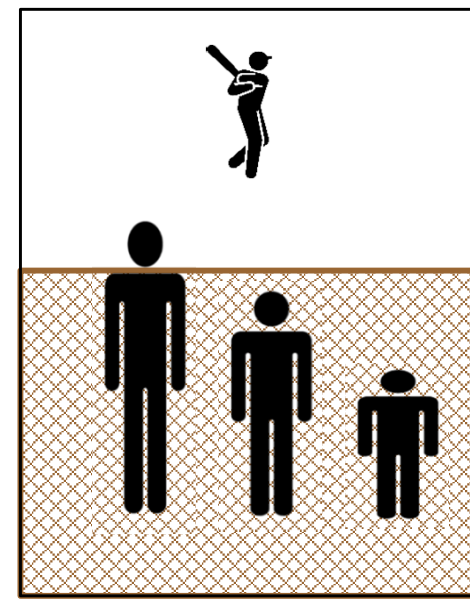
障害のない人にとって使いやすいが、障害のある人が生活しにくい＝社会的障壁

対応案② 眼鏡をかけて通常の教科書を使う

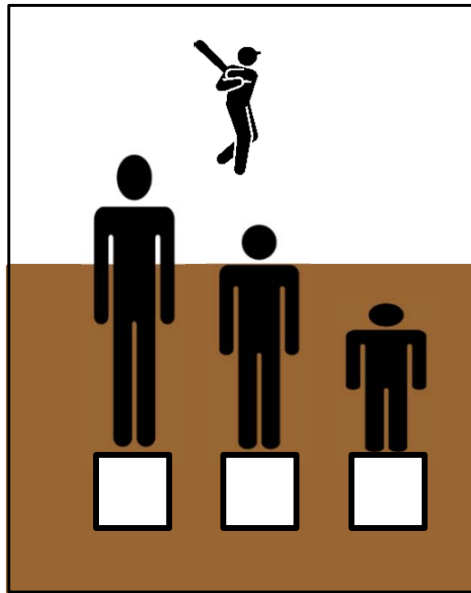
- ・元の視力機能は低いが、生活の制限は少ない ≠ 障害者



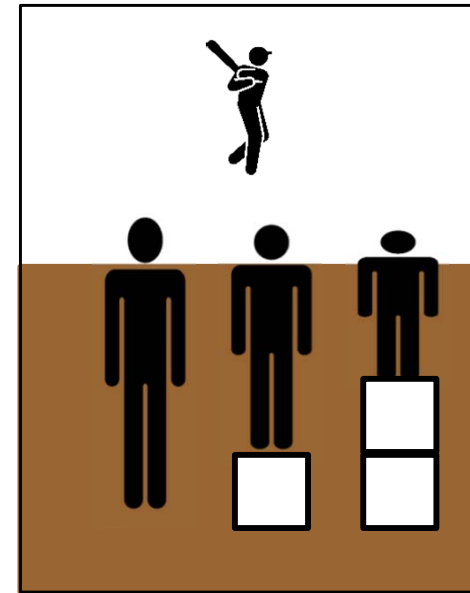
壁で見る事が出来ない（社会的障壁）



壁からフェンスへ（UD）



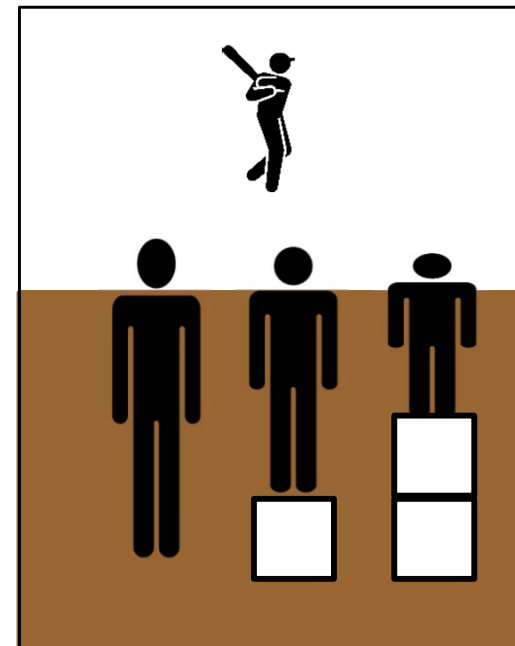
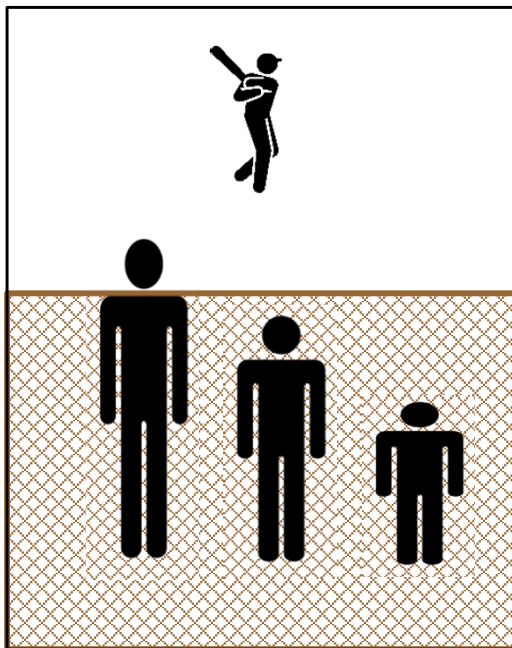
1個ずつ台を置く（平等な支援）



必要な数の台を置く（公平な支援）

基礎的環境整備

- ・ 合理的配慮の前提（特定の個人用ではない）。
- ⇒ まずは環境の整備。 ユニバーサルデザイン が望ましい
- ・ それで 不足している所を補うのが合理的配慮



- ・ 合理的配慮には、**唯一の正解があるわけではない**。
- ・ 障害特性・試験内容・大学の体制等によって異なる。
- ・ 個人の経験や勘に依存せず、**大学の体制として対応する**。

研修で重視する2つの視点

①「**漏れのない体制**」をつくること

- ・ 特定の担当者だけで判断しない。
- ・ 入試課、障害支援、学部等が、**それぞれの役割**を果たし、連携する。
- ・ 申請前の情報提供や相談体制も含めて考える

研修で重視する2つの視点

②参考となる事例を知る

- ・ 講師から典型的な事例や課題を学ぶ。
- ・ グループワークで、各大学の工夫や課題を共有する。



前半：申請前の支援体制

- ・ 情報の提示…Webページ、募集要項、説明会等で、何をどのように伝えるか
- ・ 事前相談…オープンキャンパス、保護者対応、相談窓口

後半：審査・実施体制

- ・ 合理的配慮の審査体制…入試課・障害学生支援・学部等の連携
- ・ 判断のポイント…公平性、妥当性、教育との整合性
- ・ 実施・将来的な課題



通常の進路情報に比べて情報が届きにくい。



高校教員・高校からの資料



- ・ オープンキャンパス
- ・ 進学説明会



- ・ 大学案内
- ・ パンフレット
- ・ 募集要項



- ・ 大学のwebページ



進学情報サイト



- ・ 家族・親



- ・ 友人・先輩



通常の進路情報に比べて情報が届きにくい。



~~高校教員・高校からの資料~~

特別支援の教員

配慮実績のある高校



・ オープンキャンパス
・ 進学説明会



・ 大学案内
・ パンフレット
・ 募集要項



・ 大学の
webページ



~~進学情報サイト~~



・ 家族・親



~~友人・先輩~~

基本方針

① なるべく1か所

必要な情報を見つけやすい、
一元的なページにまとめる。

入試情報

障害学生支援

受験生・入学希望者の方へ
(障害等のある方への配慮)

- ✓ 配慮内容
- ✓ 申請方法・必要書類
- ✓ 申請期限
- ✓ 相談窓口 など

迷わずアクセスできる！

② できるだけ具体的

配慮内容や申請方法を具体的に示し、
受験生がイメージできるようにする。



配慮内容を具体的に

- ・ 時間延長 ・ 別室受験
- ・ 拡大文字問題の提供
- ・ 座席の配慮 など



申請方法を明確に

- ・ 必要書類 ・ 提出方法
- ・ 申請期限 ・ 相談の流れ



相談窓口を明記

- ・ 担当部署 ・ 連絡先
- ・ 相談方法 (電話・メール等)

受験生が安心して準備できる！

③ 障害学生が アクセスできる

誰にとっても使いやすく、
情報にアクセスしやすい設計にする。



文字を読みやすく
文字サイズの変更や
コントラストに配慮



キーボードで操作可能
マウスがなくても
操作できる



音声読み上げに対応
スクリーンリーダーで
読み上げ可能



スマホでも見やすく
レスポンシブデザインで
快適に閲覧できる

すべての受験生に届く情報に！



必要な情報に、必要な人が、迷わずたどり着けることが大切です。

好ましくない例

- ・ 入試情報のWebと障害学生支援のWebで分かれている。
- ・ 具体的な配慮内容や書類の書式等が示されていない。
- ・ 画像形式のファイル（デジタルパンフレット等）のみ。
- ・ 「〇〇大学 配慮」などの検索で出てこない。
- ・ 入試のトップページからアクセスしにくい

好ましい例

- ・ テキスト形式の情報を公開⇒Webアクセシビリティ

※スマホ用のページも要確認

- ・オープンキャンパス

例) 「障害学生のための進路相談」として入試だけでなく入学後の教育相談も⇒希望者がいないことも…

- ・進学説明会

例) 情報を1枚にまとめた資料を準備。

伝えるべき情報

- ①主要な配慮内容、②申請書類、③期限（出願前締切）、④事前相談窓口

① 本人の理解・意思確認が重要である。

例) 本人が診断名を知らない

高校でも本人の希望でほとんど配慮をしていない

② 入学後の教育や生活での支援についても聞かれる。

⇒ 支援の概要 + 特徴的な教育内容を伝え、**どういう支援があれば学べるか**をしっかりとイメージしてもらう。

例) 対話型授業が多い、学外実習



3. 審査

審査の体制

- ・ 入学者選抜における合理的配慮には複数の部局が関わる。
(例) 入試課、障害学生支援課、学部など
- ・ 体制や部局によって、得意な領域も異なる。

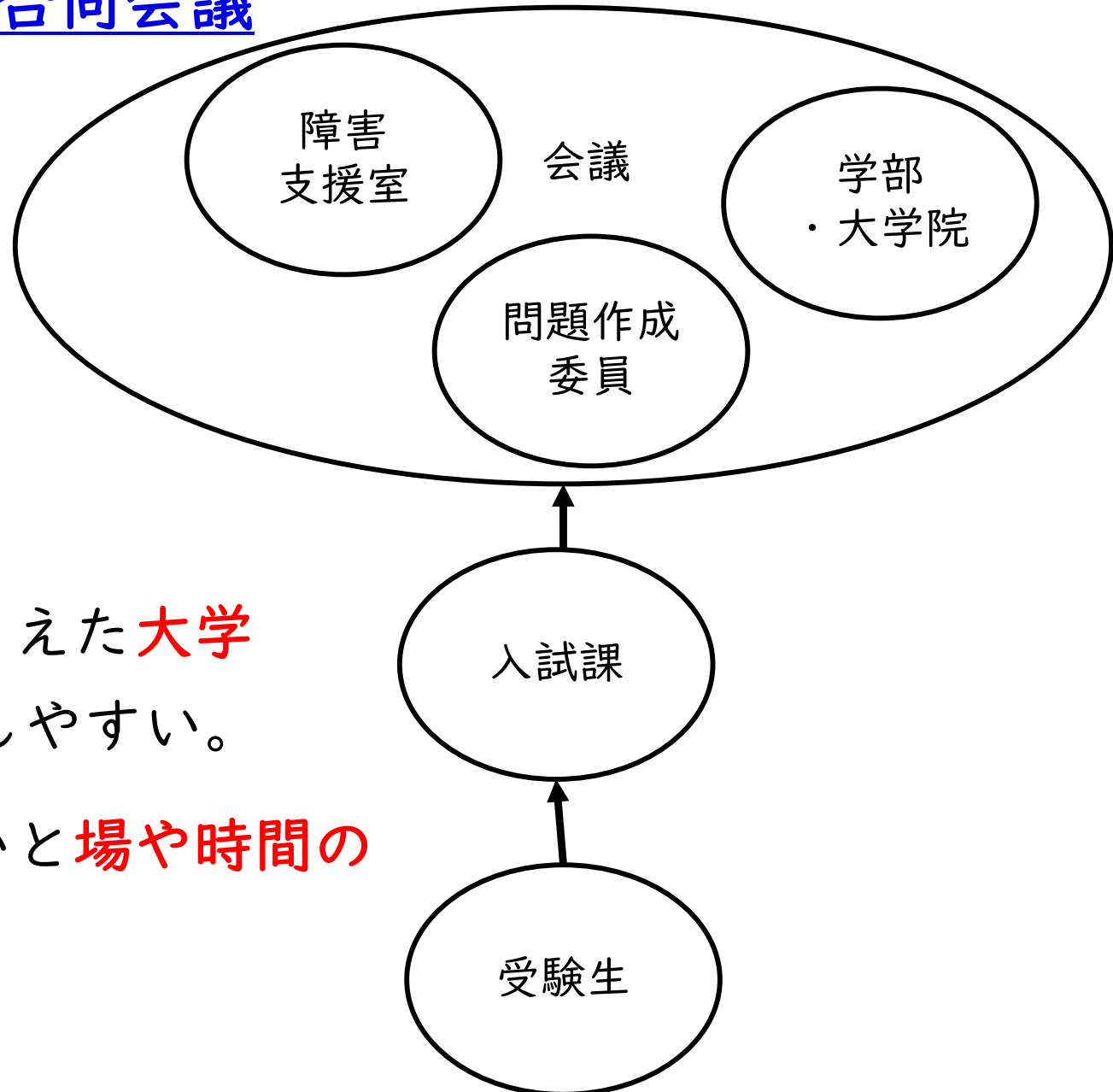
例) 入試課：制度・公平性を重視し、実施に強い。

障害学生支援課：障害特性や支援方法の理解に強い

学部：試験や教育内容との整合性からの判断に強い。

- ・ ただし、**合理的配慮の提供責任は、大学に求められている**
⇒ 特定の部局のみの判断ではリスクを伴うため、連携が重要

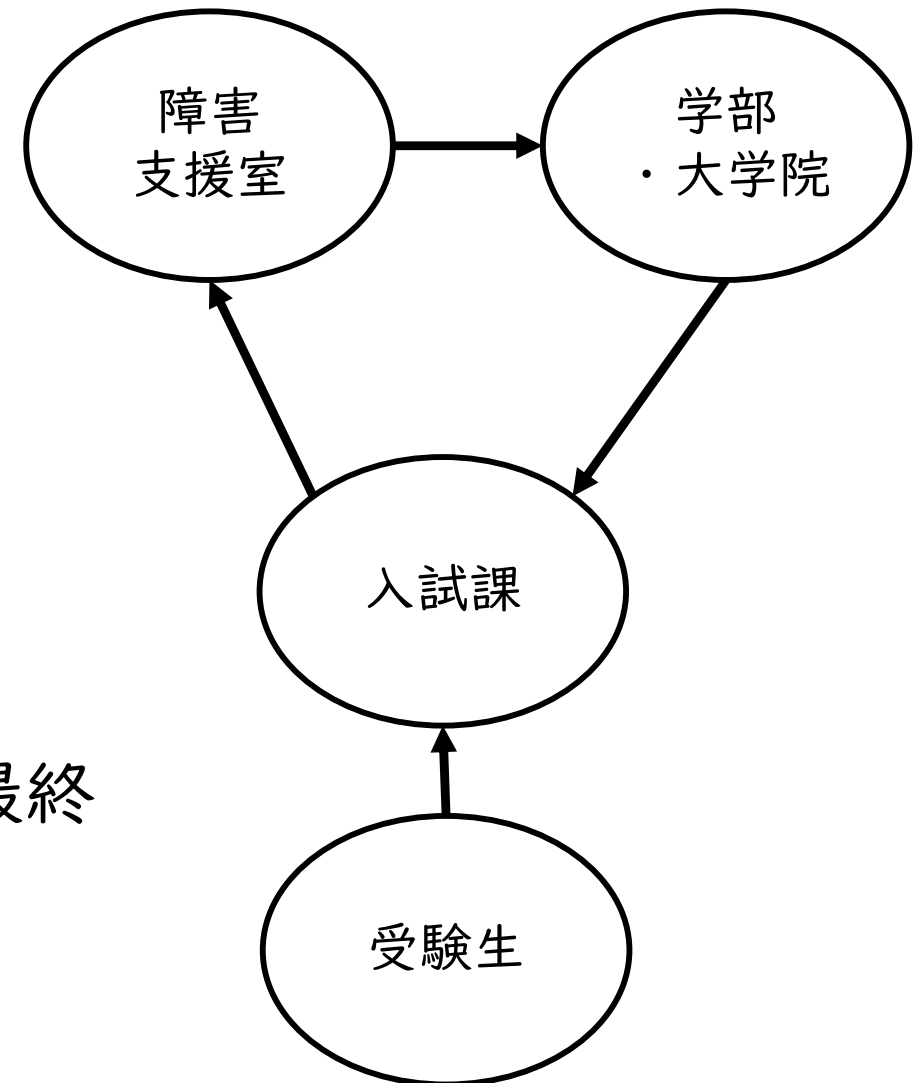
モデルケース① 合同会議



- ・ 全ての観点を踏まえた**大学**
としての決定がしやすい。
- ・ 人数・入試が多いと**場や時間の**
設定が難しい。

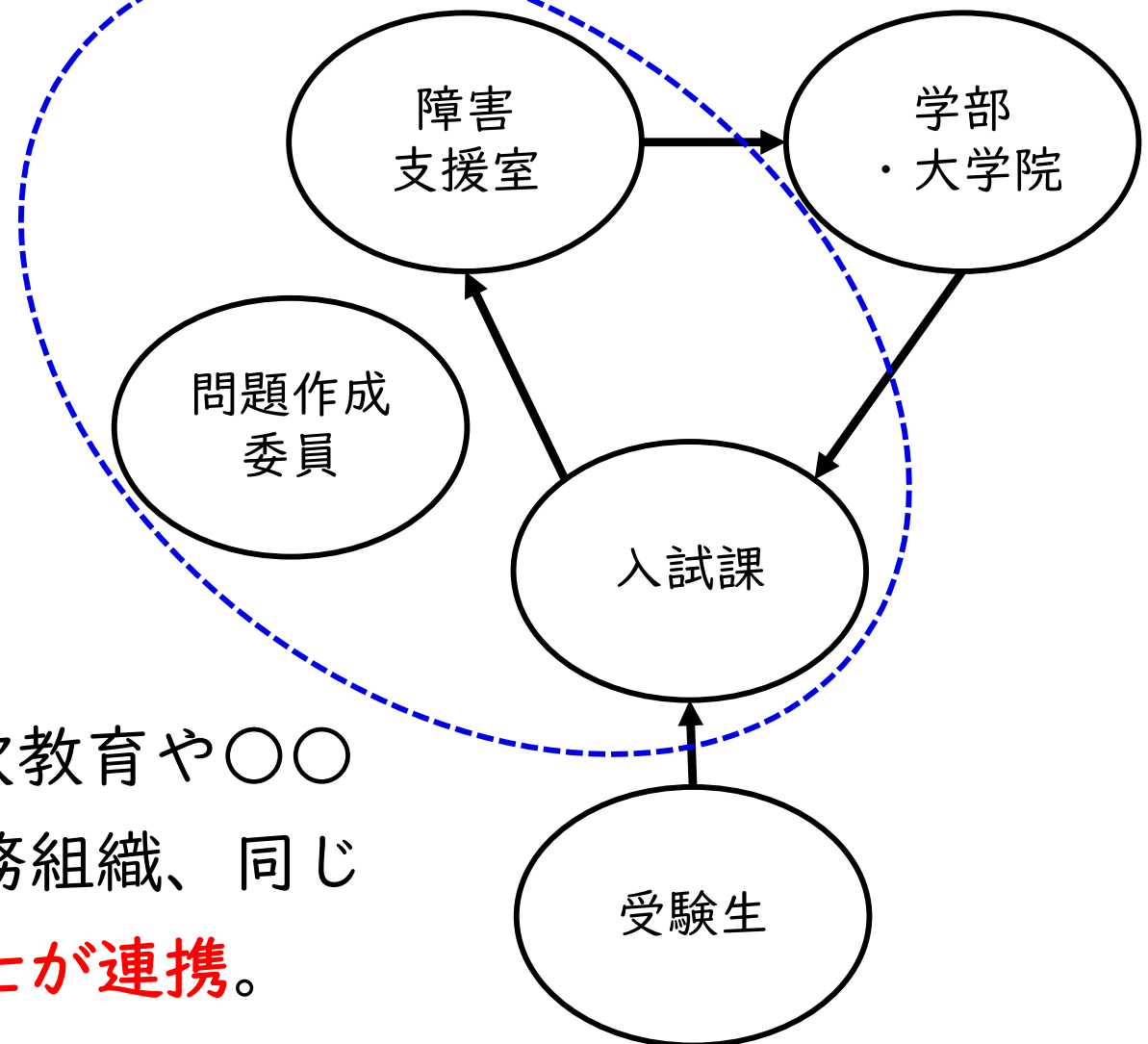
モデルケース② 書類審査

- ・ **時間をかけた判断**がしやすい。
- ・ **判断が分かれた場合**の対応、最終確認の担当を明確にする必要。



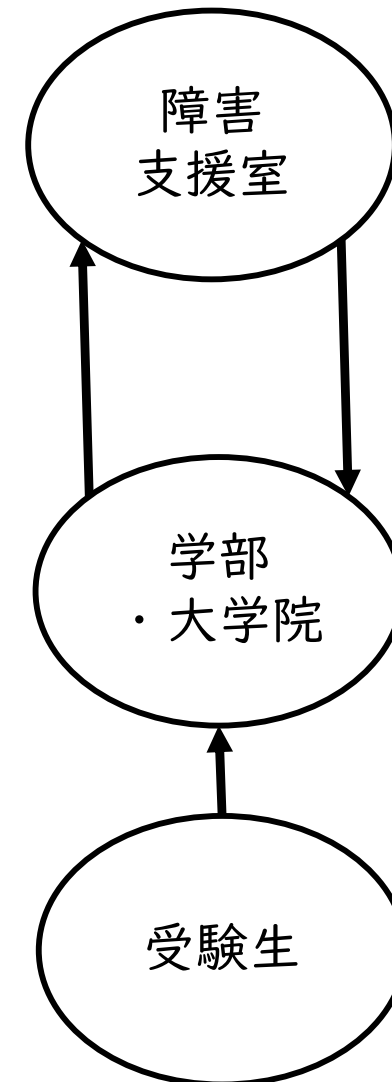
こんなケースも…

所属組織や建物が同じ



- ・ 同じ職員が部署異動
- ・ 所属組織（例．初年次教育や〇〇センター）や担当事務組織、同じ建物等、**元々部局同士が連携**。
- ・ 逆に**キャンパスが複数ある大学**等は連携に気を付ける。

編入学試験・大学院入試



- ・ 関わる部局が少なく、チェックが甘くなりやすい。

大学としての判断となるため、チェック体制が必要。

3. 審査

配慮の決定の際に考慮すべき点①

◆判断の際のチェックポイント(3つの視点)

1. 困難の程度と支援内容の整合性 (支援の専門家)

1-1. 医学的情報 (診断書や機能検査)。

1-2. 教育場面での困難度：高等学校の授業や試験での状況

※共通試験の配慮結果・提出書類は上記の情報を含む

2. 求める支援が試験や教育の本質を変えないか (学部・作問)

3. 実務上の実施可能性 (事務) 例) 座席 物品の有無 日程

⇒1～3全ての視点で判断することが必要…部署異動等も有効

一致しない場合、調整によって合理的な配慮へ

4. 実施

実施上の注意事項

- ・ 配慮によっては試験監督への負担が非常に大きくなる⇒人選
 - ・ 環境調整型配慮は「〇〇なら可能」と調整することも必要。
 - ・ 「グラフ問題をどう読み上げるか？」など、細かなノウハウは入試センターと連携しながら。
 - ・ デジタル教材の影響で、今後は点字や音声読み上げ、フォント、色などの配慮、ワープロの使用の申請の可能性も。
- ⇒問題漏洩のリスクはあるものの、テキスト情報を一元管理できれば、可能な配慮は格段に増える。
- ・ 配慮決定に関わった人は問い合わせの対応をしない。

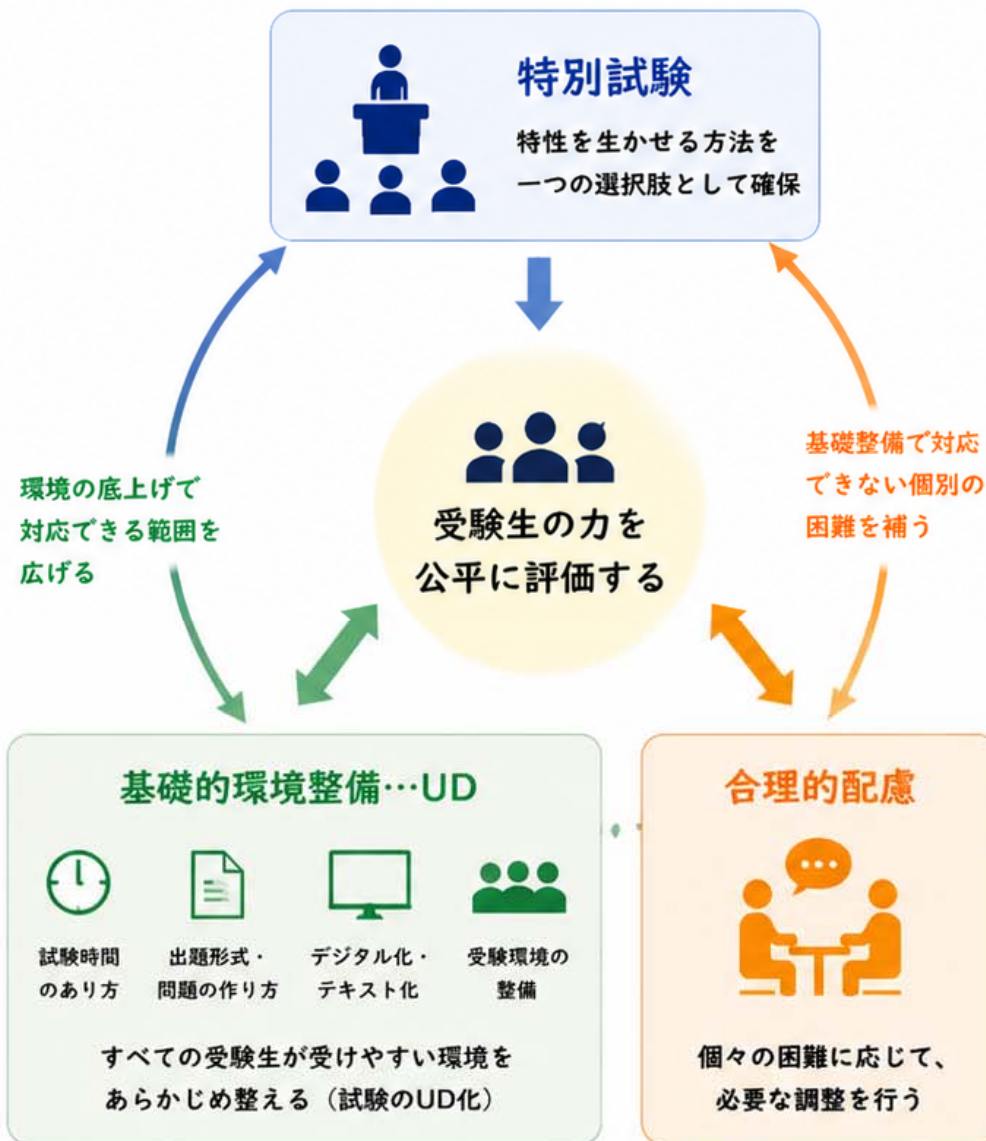
5. 今後の課題

合理的配慮のその先に

<例> 大学入学共通テストの配慮の変化

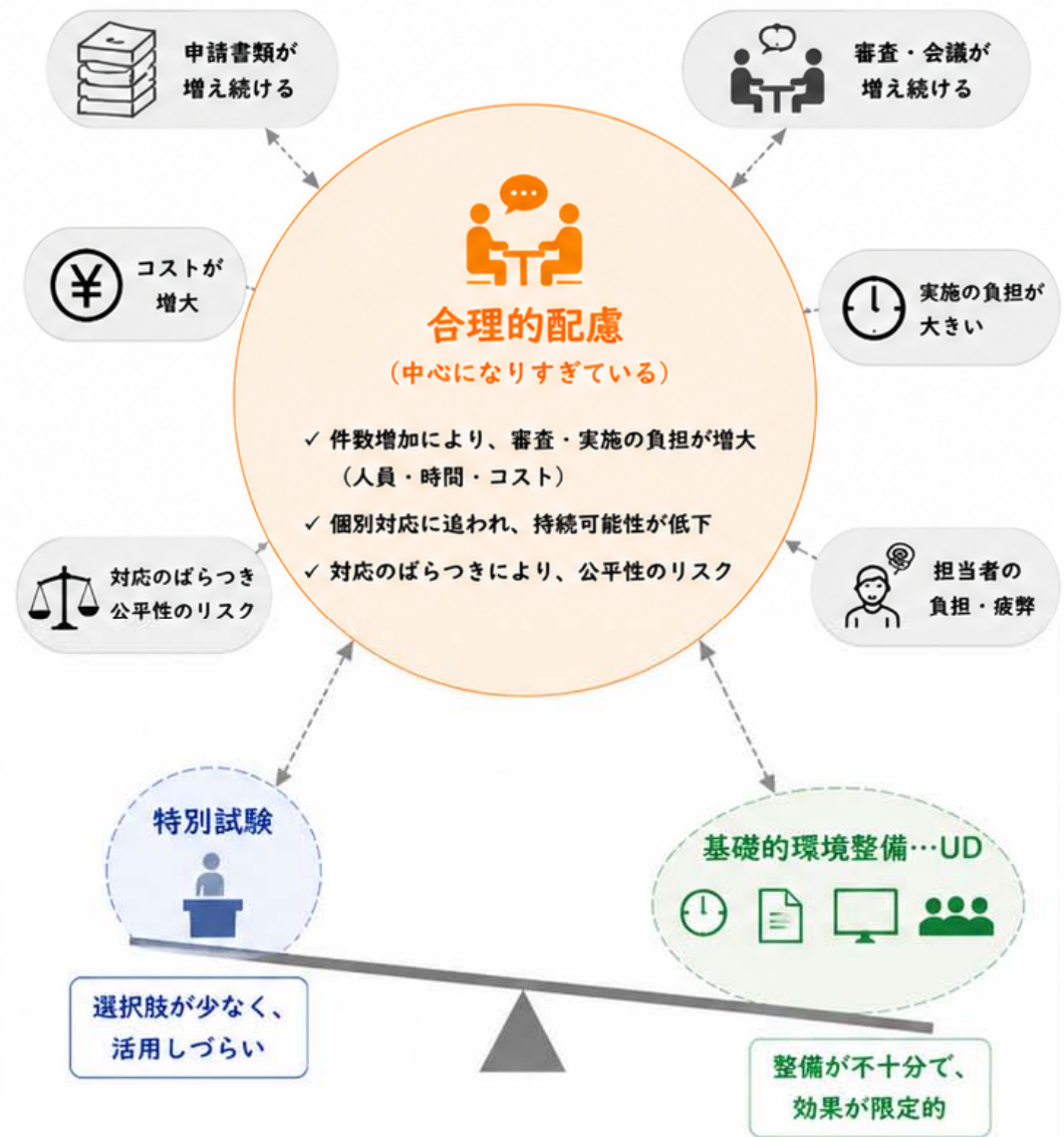
- ・ 拡大文字…22ポイントのUDゴシック体が追加。
- ・ **その他の配慮事項の増加** 「試験室の設備」や「座席位置」に関する配慮事項…12の配慮
 - 「試験時間中の動作」に関する配慮事項…16の配慮
 - 「持参使用するもの」に関する配慮事項…41の配慮
 - 「試験時間中に監督者等へ求める対応等」…11の配慮
- ・ 事後的に対応する合理的配慮だけでは**限界に近づきつつある**

目指すべきイメージ（相互に支え合う関係）



特別試験・合理的配慮・基礎的環境整備（UD）を相互に補完しあうことで、受験生の力を公平に評価できる。

現在のイメージ（バランスがとれていない状態）



合理的配慮に偏る状態では、大学側の負担が増大し、公平な評価や持続可能な体制の確保が困難になる。



特別試験や基礎的環境整備（UD）の充実・強化が必要。